

高校家庭科におけるジェンダー・セクシュアリティの授業実践の分析

著者	綿引 伴子, 竹田 有友子
雑誌名	金沢大学人間社会学域学校教育学類紀要 = Bulletin of the School of Teacher Education
号	8
ページ	35-47
発行年	2016-02-29
URL	http://hdl.handle.net/2297/44756

高校家庭科におけるジェンダー・セクシュアリティ の授業実践の分析

綿引伴子・竹田有友子*

Analysis of Lesson Reports about Gender/Sexuality in High School Home Economics Education

Tomoko WATAHIKI and Ayuko TAKEDA*

1. 背景と目的

1989年の学習指導要領の改訂で、高校家庭科は男女必修となり、男女が共に学ぶ普通教科へと移行した。男女共修の実現から25年を経て、ジェンダー・セクシュアリティに関わる研究が幅広く蓄積されつつある。しかしながら現実には、ジェンダー・セクシュアリティに関わる教育は必ずしも進展しているとはいえない。国際的には、世界人権宣言や女性差別撤廃条約において、性的権利は保障されるべきことであり、それを可能にする情報や教育の提供は国の責任であることが確認されている。多様なセクシュアリティを含むジェンダー問題を扱う教育の重要性は共通認識されている。

しかし、日本は2000年以降、新保守主義指向を背景としたジェンダー教育や性教育に対するバッシング、バックラッシュによって、法律の改正や教科書改訂に伴い学校現場ではジェンダー・セクシュアリティに関する教育実践をすすめるににくい状況となってきた（若桑他、2006）（浅井他、2006）。国連の女性差別撤廃委員会（CEDAW）からは、日本は男女平等教育・性教育の後退を含む、男女平等と男女格差の大きい国と示され、男女平等教育の必要性は明らかである（外務省、2011）。

ジェンダー・セクシュアリティの教育実践については、これまで荒井他や良の研究が報告されている。これらの研究では、高校生を対象とした量的調査から、生徒の家庭科に関する教科

観および学校教育における現状分析を行い、課題の抽出を図っている。ジェンダー視点の学習は男子より女子に向けての授業になりがちであること（荒井他、2002）、私的領域の問題提起に留まった展開になっていることが多いこと（良、2010）の改善が課題として指摘されている。

家庭科教育において、ジェンダー・セクシュアリティの問題を扱う際の私的領域とは、身の回りのジェンダー意識・男女平等・セクシュアリティなど、自分自身に関わる事象のことである。公的領域とは、男女共同参画社会や男女雇用機会均等法などの社会的な制度や、社会通念や言説などの固定的な価値観のことである。

家庭科の授業においては、私的領域は意識的に扱われることが多く、それについて生徒は男女平等に関する内容を「身近な問題」と受け止めやすい。そのため、私的領域にとどまった授業展開になることが多い。公的領域には触れることなく、私的領域だけからジェンダー・セクシュアリティに関わる内容を扱うことは、自己責任の範囲内で解決することを導きかねないし、現実生活で直面する問題の根本的解決に結びつかない。ジェンダー・セクシュアリティの問題を扱うときには、個人的なことは実は社会的な問題につながっているという社会認識を育てることに家庭科教師は自覚的になる必要があるだろう。

また、ジェンダー問題の矛盾や差別を多くの

女性を受けてきたこと、また性役割葛藤が女性にとってより切実なこと等のため、先述したように、男子より女子に向けての授業になりがちである。

ジェンダー・セクシュアリティに関する授業を構想する際、男女それぞれがジェンダー・セクシュアリティを自分自身の問題と捉える学習を構築する必要がある。ジェンダーに関する矛盾・差別・性役割葛藤は男女共に共通した問題であり、男性役割や男らしさなど、男子にとってもアイデンティティに関わる問題であることが指摘されている（伊藤他、2002）（千田、2009）。

そこで、本研究では、先行研究の指摘をもとに、ジェンダー・セクシュアリティを取り上げた授業実践の分析を行い、特徴や課題を明らかにする。特に「男性視点」や「私的領域・公的領域」の取り上げ方を中心に分析する。

2. 研究方法

「家庭科研究」（編集・発行：家庭科教育研究者連盟）¹⁾ 2003年1月（No.217）～2014年12月号（No.322）の12年間95冊に掲載されている高校の授業実践のうち、ジェンダーやセクシュアリティを取り上げている19冊、17実践を対象に分析する。同じ題材名で複数号に連続して掲載している場合は1実践として扱う（表1）。「家庭科研究」への授業実践の掲載は、実践者の投稿による。したがって、比較的積極的に取り組む教師の実践であると言える。平均的な家庭科教師の実践であるとは言い難いが、その年代の実践内容の傾向や先進的内容を読み取れると考えられる。

実践の学習内容を「人権教育」「ジェンダー意識・多様なセクシュアリティ」「性感染症」「家族・結婚」「DV・デートDV」「出産・保育」に分類する。また、授業の目的や内容を分析する際に、次の2点の扱いに着目する。

・男女どちらの立場に立った授業実践であるか、特に「男性視点」が含まれているか。「男

性視点」とは、男性にとっての現状・課題や、男性が自分の問題として考える内容とする。

・各授業実践が私的領域の学びにとどまっているか、公的領域におよぶ学びになっているか。

この2点を、「男性視点」「私的領域・公的領域」として分析する。

3. 結果

各授業実践について、「目的」と「内容」を抽出し、「男性視点」と「私的領域・公的領域」に着目した結果を述べる。「目的」は本文中の授業者の文章であるため、記載のしかたが不統一である。「内容」は著者が要約したものである。実践①～⑩は表1、表2の番号と一致している。

①高校家庭科における人権教育－エンパワーメントのための教材開発（3号にわたる報告）

[目的]

人権教育を高校生一人ひとりが人生の主体者となる「主体作り」の学習であると捉え、自己を受容・尊重するだけでなく、多様性を受け入れ、他者を尊重し、共に生きることに繋がる学びを促進する。

[内容]

国際社会において、人権教育はどのような歴史的推移を経て、何を目指してきているのかを理解し、人権教育を行う上で重要な視点及び教授・学習法、目標を明らかにする。

[男性視点]

男女という考え方ではなく、「一人の人間」として生きていく意識を育む。

[私的領域]

様々な問題を解決するための態度や技能を育成する。

[公的領域]

国際的な文章を分析している。

②新米家庭科教師の5年間の経過報告（サブタイトル）（2号にわたる報告をa、bとする）

a.ジェンダーに気づく授業

b.男女の関係を見直す授業

表1 分析対象の授業実践

実践番号	題材名	著者	家庭科研究の掲載号、ページ
①	高校家庭科における人権教育 -エンパワメントのための教材開発	藤井徳子	2003年1月号 p65-69
	高校家庭科における人権教育 -エンパワメントのための教材開発 (その2)	藤井徳子	2003年2月号 p56-61
	高校家庭科における人権教育 -エンパワメントのための教材開発 (その3)	藤井徳子	2003年3月号 p54-59
②	ジェンダーに気づく授業 -新米家庭科教師5年間の経過報告	小川明紀	2003年7月号 p54-59
	男女の関係を再見す授業 -新米家庭科教師5年間の経過報告 (2)	小川明紀	2003年8月号 p56-63
③	定時制工業高校での授業から -保育、介護、住居、家庭経済	瀬戸順子	2004年6月号 p52-61
④	家庭科の学習を通して学ぶコミュニケーション -他人と関わり自分の世界を広げてゆく授業	田中早苗	2005年10月号 p35-46
⑤	性行為感染症 -ジェットコースターに乗りますか?	富田道子	2007年8月号 p41-46
⑥	家族・家庭を考える授業	片桐哲郎	2007年10月号 p45-52
⑦	家族・ジェンダー	平形明子	2007年12月号 p14-23
⑧	求人票を使った家庭経済・職業労働の学習	石引公美	2007年12月号 p44-51
⑨	「現代の家族のかかえる問題」レポート発表授業	中道利子	2008年10月号 p38-45
⑩	自立と生活共同 -家族領域から住領域へ①	富田道子	2009年8月号 p34-41
	自立と生活共同 -家族領域から住領域へ②	富田道子	2009年10月号 p42-51
⑪	いのちをいとおしむ -生命の誕生	柳町幸子	2011年2月号 42-47
⑫	考える「家族の授業」の試み	弓削弥生	2011年4月号 p42-47
⑬	ライフスタイルと家族について考えよう -高校家庭基礎「人と一生と家族・家庭」領域の指導	石垣和恵	2011年8月号 p40-47
⑭	家族が抱える問題を学んで -DVを学ぶことから見える生徒の姿・本音	新谷仁奈子	2012年4月号 p52-57
⑮	現代の家族問題 -今も家族の中に潜んでいる暴力問題を考える	渋谷絹子	2012年6月号 p46-51
⑯	大人へのインタビュー -家族問題の学習	森弘子	2012年6月号 p52-55
⑰	いのちを見つめることから始めよう! -選択科目「発達と保育」で生徒とともに学んだこと	柳町幸子	2012年12月号 p50-55

[目的]

男性女性ともにジェンダーに気づき、さまざまなセクシュアリティについて学ぶ。自分自身のセクシュアリティを問い直す。

[内容]

a. 「自分の性でよかった、得したと思ったこと、不利だ・損したと思ったこと」についてのアンケートに回答しジェンダー意識が揺さぶら

れる。身近にあるジェンダーを探し感想を書く。教師のまとめでは、家族・家庭生活について学ぶ上でジェンダーの視点で考えることはとても重要であること、高校生は大人の仲間入りをしたので、自分だけでなく社会や仲間とのつながりについて考えるように伝える。

b.aのアンケートの集計結果を読み取る。その内容に関して、日本と他国のジェンダー・多

様なセクシュアリティに関する法律や価値観などを比較する。

[男性視点]

自分の性にかかわる損・得を考えさせている。

[私的領域]

自分の性による損・得を考えたり、身の回りのジェンダーを見つけたりする。

[公的領域]

社会の中のジェンダーについての賛成・反対の意思表示をし、ジェンダー・フリー社会を実現させるにはどうしたらよいか意見を書く。

③定時制工業高校での授業から一保育、介護、住居、家庭経済

[目的]

性感染症について理解する。

[内容]

男子校での実践である。STD（性感染症）の種類と特徴が書かれたプリントと穴埋め式のプリントを使用し、出産について説明を聞く。宿題で、母親に出産時の話を聞く。沐浴人形や妊娠体験服を用いて実習を行う。

[男性視点]

なし

[私的領域]

コンドームを使用しない場合などの性感染症の危険性を知る。

[公的領域]

なし

④家庭科の学習を通して学ぶコミュニケーション—他人と関わり自分の世界を広げてゆく授業

[目的]

・自分のまわりのいろんなことに目を向け、興味や疑問をもつ。

・友達の意見や考え、自分と違う意見にも耳を傾け、交流できるようにする。

[内容]

新聞記事の切り抜きより、自分の意見をまとめる。4人班で知りたいことや調べてみたいことを決める。それに関連あるテーマを個人の小

テーマとして調べレポートを作成する。その後、壁新聞を作りコンテストを行う。調べた内容をプレゼンテーションし、質疑応答、自分の意見を発表する。

[男性視点]

なし

[私的領域]

日本の保育や愛、性をめぐる現状を調べ、個人で新聞を作成する。

[公的領域]

保育や愛、性をめぐる内容について新聞・雑誌で調べる。

⑤性行為感染症—ジェットコースターに乗りますか？

[目的]

他者を大事にする視点を育てる。

[内容]

「世界エイズデー」のポスターやコンドームでハートをつくったものを掲示し、コンドームについて紹介する。「ジェンダー論の教え方ガイド」の「ピルを飲まずにHをするな」の資料を参考に作成されたプリントを読む。「性体験がある高校生の1割がクラミジアに無症状で感染している」という新聞記事を読む。教師が性感染症の予防法を5つ提示し、授業の振り返りを書く。

[男性視点]

男子高校での実践である。女子大生への性教育を指南した本を参照して、男子高校生向けに変えて行う。

[私的領域]

男子を対象とした性感染症について、コンドームをジェットコースターのシートベルトに例え具体的に考える。

[公的領域]

なし

⑥家族・家庭を考える授業

[目的]

自分の家族について改めて考える。

[内容]

家族にインタビューを行い、それぞれの思いを聞きまとめる。

[男性視点]

なし

[私的領域]

自分の家族にインタビューを行い、自分の家族について改めて考える。

[公的領域]

なし

⑦家族・ジェンダー

[目的]

生徒の固定観念を揺さぶり、社会の中にあるジェンダー・バイアスに目を向けるように導く。

[内容]

自らの意思で「専業主婦」を担った男性と、リストラによって主夫をしなければならなくなった男性の家庭を描いたテレビドラマ「アットホームダッド」を視聴し、班で討論する。自分なら主夫になるかならないか考える。また、2対2でミニディベートを行う。そのあと、新性別役割分担やM字型就労、中高年の男性の自殺者急増、専業主婦に多い育児不安、DV・デートDVなどを取り上げ、社会の中にあるジェンダー・バイアスについて考える。

[男性視点]

専業主婦や、男性の自殺率の高さ、男性の暴力・犯罪は女性の16倍であるなど、男性の問題を取り上げる。

[私的領域]

アンケートで、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という意見に賛成か反対か、家での家事は誰がするかを問い、身近なジェンダーについて考える。また、専業主婦を取り上げたドラマを視聴し、自分のジェンダー観と向き合い、ミニディベートにより意見交換する。

[公的領域]

社会の中にあるジェンダー・バイアスに目を向けるため、ジェンダーを9つの視点からみる。社会の現状とその背景について、新性別役割分担やM字型就労、男性の自殺者急増、専業主婦

に多い育児不安、DV・デートDVなどを取り上げ、社会の中にあるジェンダー・バイアスについて考える。自分の中の“普通”が本当に“普通”なのかを改めて考える。

⑧求人票を使った家庭経済・職業労働の学習

[目的]

・生活産業現場に職業を求める普通高校生の基礎知識として、職業生活を見据えた家庭科学習を行う。

・求人票の就業時間、賃金、福利厚生を手がかりに、労働条件、生活時間、就業形態、収入、社会保険、男女の雇用について学ぶ。

[内容]

「家庭経済と消費生活」の授業で、求人票やデパート情報、消費者問題のパンフレット、通販のカタログ、新聞などを用い、生活情報の見方について理解する。

[男性視点]

なし

[私的領域]

なし

[公的領域]

日本では夫の家事・育児時間は妻の1/7であることや、日本と他国の労働時間・年間休日の差をみて、家事労働の分担について考える。求人票やデパート情報、消費者問題のパンフレット、通販のカタログ、新聞などを用い、生活情報を読み取る。

⑨「現代の家族のかかえる問題」レポート発表授業

[目的]

・家族・家庭に関するレポートの作成を通して、家族・家庭、生活を取り巻く問題に目を向け、そこで問題点を知り、その背景について考える。

・一定の時間の中で、レポートを作成して自分の意見をまとめ、聞き手に適切に伝えることのできる発表を行うことができる。

・クラス全員の発表を聞き、考えることにより、家族・家庭を取り巻く現状について様々な

事象を関連させて捉え、今後の自身の生活について考えることができる。

[内容]

レポート作成の前に、教師が配布したプリントを読んだり、レポート作成の予備知識・関心喚起のために、「家族とは」「産業構造と家族の変化」について授業を受けたりする。家族・家庭についてのレポートを作成し、発表を行う。

[男性視点]

なし

[私的領域]

自分の将来のことに関連づけたテーマ設定を行うことにより、自分について考える。身の回りのなぜ?から問題を見つけ出し解決する。

[公的領域]

テーマについて検討する過程で、社会的な状況や法律などについて調べたレポートを作成する。それぞれ調べた内容をプレゼンテーションし合うことにより、様々な事象を関連づけて捉える。

⑩自立と生活共同 (2号にわたる報告をa、bとする)

[目的]

a.家族領域から住領域へ①

- ・生活に主体的に関われる大人を目指す。
- ・多様な家族が存在することを、自分たちの「家族イメージ」から理解する。
- ・家族が、社会構造の変化に大きく影響することを理解する。

b.家族領域から住領域へ②

- ・自立の概念を広げる：自分の人生を主体的に生きる意味の自立と、それを助ける「支援」を求めながら自分の人生を自分で決めることも自立である、とする考え方があることを理解する。
- ・生活共同について考える：共同の住まい方にはどのようなものがあるのかを理解するとともに、そこに異家族、地域社会とネットワークが存在することを理解する。

[内容]

a.

班で「家族のイメージ」をKJ法を用いて模造紙にまとめ発表する。そこに現れたことを4つの視点「家族の形態・構成メンバー」「家族の絆」「ポジティブな感情・ネガティブな感情」「家族を巡るさまざまな感情」(学年共通のカード)にまとめる。

b.

- ・教科書に掲載されている住居平面図より、プライベート・スペースでの生活を想像する。コレクティブハウスの存在意義を理解する。
- ・テレビドラマ「ラストフレンズ」を通して、ルームシェアやゲストハウスのマナーや入退居時の決まりなどを理解する。

[男性視点]

なし

[私的領域]

各班で「家族のイメージ」をKJ法を用いて分析することにより、自身の家族観を明確にする。また、担当教員の家族や学年全体に共通する家族観を4つの視点で表し、家族についてまとめる。

[公的領域]

自分の考える家族のイメージだけではなく、家族のあり方は多様であることを認識する。また、家族が社会構造の変化に大きく影響することを理解する。

⑪いのちをいとおしむー生命の誕生

[目的]

- ・妊娠出産のメカニズムを知る。
- ・胎児は、主体的に生まれてくることを知る。
- ・生まれたときから、人との関係性の中で生かされていることに気づく。
- ・妊娠・出産は個人的なことだけではなく、社会のあり方が大きく関わっていることに気づく。

[内容]

生徒を対象に妊娠出産について知りたいことをアンケート調査する。生徒から出された質問に対し、生徒が答える。生命の誕生について調

べた生徒が発表する。また、教師が妊娠のメカニズムについて講義する。中絶可能な期間や、それが国や社会のあり方によって異なることなどを理解する。

[男性視点]

男子校での実践である。男子を寝かさない授業をと考え、妊娠・出産にについてのいのちの誕生からを男子向けにわかりやすく説明し、実際に将来自分が子どもをもつ立場になった時、男性が新しいいのちにどう向き合うべきかを考える。

[私的領域]

妊娠出産のメカニズムを知る。

[公的領域]

中絶可能期間などの妊娠に関わることと国や社会のあり方との関係を知る。

⑫考える「家族の授業」の試み

[目的]

今の家族を見つめることで、将来どのような家族・家庭を築いて行きたいのかを意識し、考える力を養う。

[内容]

3～4人でグループをつくり、テーマを設定しまとめて発表する。テーマは保育、高齢者を含む家族に関わるすべての範囲から設定可能とする。

[男性視点]

なし

[私的領域]

これから家庭をつくる当事者として、社会や家庭、自分についての課題に取り組む。恋愛や結婚、家事分担、ライフスタイル、性などさまざまな角度から自分なりのテーマを見つけてレポートにまとめる。

[公的領域]

はじめは、恋愛・結婚など比較的軽い気持ちでテーマ設定をするが、調べるに従ってジェンダーにかかわる問題にぶつかり、どうしてこのような男女差ができるのか、家庭や社会はどうあるべきかを社会問題や法などに広げて考える

ようになる。私的から公的に広がる。

⑬ライフスタイルと家族について考えようー高校家庭基礎「人の一生と家族・家庭」領域の指導

[目的]

・将来のライフスタイルと家族・働き方についての見通しがもてるようにする。

・家庭生活と社会が密接に関連していることを理解し、現代社会の課題を生徒が身近なものとしてとらえることができるようにする。

[内容]

・自分や大人である家族の1日の生活時間から人生を見通す。

・「結婚相手に求めるものは何？」を導入として、グループワークなどを通してライフスタイルと働き方を考える。

・理想のライフスタイルを選び、選んだライフスタイル同士でペアを作り子育てシミュレーションをし、グループワークを通じて社会的支援について考える。

[男性視点]

なし

[私的領域]

結婚に求めることを出し合ったり、ペアになり子育てシミュレーションを行う。

[公的領域]

男女の働き方や賃金格差、子育ての社会的支援などを取り上げている。

⑭家族が抱える問題を学んでーDVを学ぶことから見える生徒の姿・本音

[目的]

生徒の生活実態からデートDVについての知識や認識を深める。

[内容]

・プリントを用いて、DVやデートDVに関する意識チェックを行う。穴埋め式のプリントを用いてどのような行為が暴力なのか理解する。

・新聞記事を読み、加害者の思いを知る。

[男性視点]

男性のDV加害者や被害者を取り上げている。

[私的領域]

身の回りで起こりうるDVについて、DVの種類を知り、自分の中のDV意識チェックを行い、DVがおこる原因やサイクルを知る。

[公的領域]

DV行為があったと判断される場合には、その被害を防止するDV防止法があることを知る。以前は加害者だけが悪いとされるDVだったが、新聞記事により加害者が抱えるストレスや社会問題を考える。

⑮現代の家族問題—今も家族の中に潜んでいる暴力問題を考える

[目的]

家族に関する様々な場面で暴力や虐待に反応する生徒が増加する中で、生徒たちが授業に何を求めているかを(教師が(著者加筆))考える。

[内容]

・「結婚したい？」1000人の独身男女への調査から「自分は結婚したい! ?したくない! ?」のどちらかを選び、その理由を書く。

・結婚について憲法の面から理解し、2人組で婚姻届を書く。

・戸籍のない子の不利益や戸籍の複雑さを表したプリントを用いて、変化する家族と家族法、民法改正について知る。

・DVによって、出生届が出されず、無戸籍になった子どもの例が書かれたプリントから、戸籍のない子の存在について知る。

[男性視点]

なし

[私的領域]

結婚したいかどうか問い、自分の結婚観について考える。

[公的領域]

結婚や家族にかかわる法律や戸籍について学ぶ。

⑯大人へのインタビュー—家族問題の学習

[目的]

インタビューを通して、「家族の学習」を身

近に捉えるきっかけをつくる。

[内容]

Aこどものいる親、B高齢者、C大人の人の3つの世代の大人を設定し、A・B・Cのうち1つ以上を選び、決められた質問項目についてインタビューし、内容をまとめる。

[男性視点]

なし

[私的領域]

自分の身近な大人にインタビューを行うことで、家族について考えるきっかけとなり、個人の内なるジェンダー観が揺さぶられる。

[公的領域]

なし

⑰いのちを見つめることから始めよう!—選択科目「発達と保育」で生徒とともに学んだこと

[目的]

・児童虐待の現状と問題点を知り、子育てのための支援を考える。

・自分をとりまく社会と法律について考える。

[内容]

・生徒の学びたいことをアンケート調査で把握する。

・絵本や映像から、障害をもついのちや他国の同世代の子の生き方を知る。ユニセフの動画からいのちについて考える。

・絵本を取り上げ、性的虐待の増加や現状を学び、その原因について考える。

・虐待防止策を「自分ができること」「家庭でできること」「社会や国にのぞむこと」の3点で考え、班で発表する。

[男性視点]

なし

[私的領域] (「公的領域」に記載)

[公的領域]

児童虐待の事件を追った記事をみて、児童虐待を防止するためにa自分ができること、b家庭でできること、c社会や国に望むことの3点から考える。aは私的領域、bcは公的領域である。b、cに関連して「ワークライフバランス社会」

表2 対象授業実践の分析結果（学習内容、男性視点、私的領域・公的領域）

実践番号	題材名	学習内容	男性視点	私的領域	公的領域
①	高校家庭科における人権教育 -エンパワメントのための教材開発-	人権教育	○ 「一人の人間として」を強調	○	○
	高校家庭科における人権教育 -エンパワメントのための教材開発（その2）				
	高校家庭科における人権教育 -エンパワメントのための教材開発（その3）				
②	ジェンダーに気づく授業 -新米家庭科教師5年間の経過報告	ジェンダー意識・ 多様なセクシュアリティ	○	○	○
	男女の関係を直視す授業 -新米家庭科教師5年間の経過報告（2）				
③	定時制工業高校での授業から -保育、介護、住居、家庭経済	性感染症		○	
④	家庭科の学習を通して学ぶコミュニケーション -他者との関わり自分の世界をひろげてゆく授業	家族・結婚		○	○
⑤	性行為感染症 -ジェットコースターに乗りますか？	性感染症	○ 男子校生徒向け	○	
⑥	家族・家庭を考える授業	家族・結婚		○	
⑦	家族・ジェンダー	性別役割分業 DV・デートDV	○ 専業主夫、 男性の自殺率、暴力	○	○
⑧	求人票を使った家庭経済・職業労働の学習	性別役割分業			○
⑨	「現代の家族のかかえる問題」レポート発表授業	家族・結婚		○	○
⑩	自立と生活共同 -家族領域から住領域へ①	家族・結婚		○	○
	自立と生活共同 -家族領域から住領域へ②				
⑪	いのちをいとおしむ -生命の誕生	出産・保育	○ 男子校生徒向け	○	○
⑫	考える「家族の授業」の試み	家族・結婚		○	○
⑬	ライフスタイルと家族について考えよう -高校家庭基礎「人の一生と家族・家庭」領域の指導	家族・結婚		○	○
⑭	家族が抱える問題を学んで -DVを学ぶことから見える生徒の姿・本音	DV・デートDV	○	○	○
⑮	現代の家族問題 -今も家族の中に潜んでいる暴力問題を考える	家族・結婚		○	○
⑯	大人へのインタビュー -家族問題の学習	家族・結婚		○	
⑰	いのちを見つめることから始めよう！ -選択科目「発達と保育」で生徒とともに学んだこと	出産・保育		○	○

学習内容：「人権教育」「ジェンダー意識・多様なセクシュアリティ」「性感染症」「家族・結婚」

「DV・デートDV」「出産・保育」に分類した

○：取り上げている

や「男女共同参画社会」の実現が虐待防止に繋がるという意見が生徒から出される。

4. 考察

(1) 学習内容

表2に示すように、17実践の学習内容を「人権教育」「ジェンダー意識・多様なセクシュアリティ」「性感染症」「家族・結婚」「DV・デートDV」「出産・保育」に分類した。「家族・結婚」は、家族に関して広く扱う場合に分類する。

最も多いのは「家族・結婚」の8実践(④⑥⑨⑩⑫⑬⑮⑯)である。④⑨⑫⑬はテーマを設定しレポートにまとめたり発表したりして家族をめぐる問題を理解させたり考えさせたりしている。⑥⑯は家族やおとなへのインタビュー、⑩はKJ法を用いて家族観やジェンダー観を揺さぶっている。⑮は家族に関する婚姻届や戸籍、民法などの法や制度を取り上げ現代の家族の問題を示している。家族・結婚と関連させてジェンダー・セクシュアリティを取り上げられることが多かった。

ジェンダー・セクシュアリティを直接取り上げているものは、「ジェンダー意識・多様なセクシュアリティ」(②)、「性別役割分業」(⑦⑧)、「性感染症」(③⑤)、「DV・デートDV」(⑦⑭)の6実践(重複あり)である。

その他には、「出産・保育」2実践(⑪⑰)、「人権教育」1実践(①)である。

「ジェンダー意識・多様なセクシュアリティ」については②のみであり、性による損・得を考えさせることで揺さぶり、セクシュアリティに関する法律や価値観について日本と他国を比較している。

「性別役割分業」については、⑦がテレビドラマやミニディベートを用いながら専業主夫、男性の自殺率や暴力、DVを取り上げ、男女の役割について考えさせている。

「性感染症」に関する2実践は、性感染症の予防について学ぶためにプリントを使用したり、

世界エイズデーのポスターを使用したりして感染症について理解を促している。

「DV・デートDV」の⑭は、DVやデートDVについての知識や加害者の背景・社会問題の理解を促している。

授業の「目的」に、「ジェンダー」の記載があるのは、②⑦である。②は「男性女性ともにジェンダーに気づき、さまざまなセクシュアリティについて学ぶ。自分自身のセクシュアリティを問い直す。」、⑦は「生徒の固定観念を揺さぶり、社会の中にあるジェンダーバイアスに目を向けるように導く。」とある。どちらもジェンダーについての固定観念を揺さぶり気づきを促すことをねらっている。

目的や内容に「セクシュアリティ」について記載が見られたのは②のみである。

(2) 男性視点

男性視点の含まれる授業実践は、17実践中6実践である(表2)。

①は、男女という考え方ではなく、一人の人間として生きていく意識を育む実践である。直接的に男性視点を取り上げているとはいえないが、性を超えて人間という視点で取り組んでおり男性視点も含まれていると考えられる。

②は自分の性にかかわる損・得を考え、回答をクラスで共有することから授業を始めている。

⑦は専業主夫という男性視点からジェンダーを捉えた実践である。専業主夫を取り上げたテレビドラマを視聴し、出された生徒の疑問から、ジェンダーの問題を考えさせている。社会のジェンダー・バイアスにより引き起こされる問題の一つとして、男性の自殺率の高さや、男性の暴力・犯罪の多さ(女性の16倍)などをあげ、男性視点の問題に着目し、男子生徒もジェンダー問題への関心を持たせるようにしている。

⑭は男性のDV加害者や被害者を取り上げている。

⑤⑩は男子高校での実践であるため、ジェン

ダー・セクシュアリティに関する授業を男子生徒にどう関心を持たせるかという点にポイントが置かれている。⑤は女子大生への性教育を指南した本を参考にして、男子高校生が興味・関心を持つように変えて性感染症について教えている。⑪は男子を寝かさない授業をと考え、妊娠・出産についてメカニズムや妊娠・出産と社会のあり方との関係などを男子向けにわかりやすく説明し、実際に将来自分が子どもをもつ立場になった時、男性が新しいいのちにどう向き合うべきか学んでいる。

男女が共に学んでいる授業で男性視点を取り上げられているのは①②⑦⑭のみである。そのうち、ジェンダー・セクシュアリティを直接取り上げているのは②⑦⑭のみである。

(3) 私的領域・公的領域

全17実践中、私的領域を取り上げているのは16実践（①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯）、公的領域を取り上げているのは13実践（①②④⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯）である（表2）。私的領域のみは③⑤⑥の3実践、公的領域のみは⑧の1実践、私的領域・公的領域両方の領域が含まれるのは、①②④⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯の12実践であり、私的領域・公的領域ともに扱う実践が多い。

ここでは私的領域・公的領域の両方を取り上げている実践について述べる。

「家族・結婚」が学習内容である④⑨⑩⑫⑬⑮は、生徒自身の関心や生徒の将来と関連付けてテーマ設定させたり、生徒に問いかけたりして、家族に関する学習内容を自分のこととして考えさせようとしている（私的領域）。また、テーマを追求する過程で法律や制度、社会問題について学んだり、社会構造との関連や解決策を考えたりして、私的領域から公的領域へ広がるように構成している。

「出産・保育」の⑯は、児童虐待の事件を追った記事のみをみて、児童虐待を防止するためにa自分ができること、b家庭でできること、c社会や国に望むことの3点から考えさせている。

私的・公的両面から防止策を考えるなかで、生徒は「ワークライフバランス社会」や「男女共同参画社会」の実現が虐待防止に繋がるということに気付いていく。自分の問題と社会の問題がリンクしていることがわかる展開である。

次に、ジェンダーやセクシュアリティを主要なテーマとして取り上げている②⑦⑭の実践について述べる。先述したように、授業の目的に、②⑦は「ジェンダー」という言葉が含まれており、⑭は「DV」が含まれている。また、いずれにも男性視点が含まれている。

②「ジェンダーに気づく授業-新米家庭科教師5年間の経過報告」「男女の関係を見直す授業-新米家庭科教師5年間の経過報告（2）」は、2号にわたり連続して報告している。自分の性の損・得を問いかけ、回答をクラスで共有しながらジェンダー観を揺さぶる。次に身の回りのジェンダーを見つけさせ、社会の中のジェンダーについての賛成・反対の意思表示をし、ジェンダー・フリー社会を実現させるにはどうしたらよいか考えさせる。また、ジェンダー・セクシュアリティに関連する法律や価値観について、日本と他国を比較している。生徒自身の問題として考えさせるとともに、社会的な視野から問題の解決に向けて考えさせている。

⑦「家族・ジェンダー」は、アンケートで、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という意見に賛成か反対か、家での家事は誰がするかを問い、身近なジェンダーについて考えるきっかけとしている。さらに、専業主夫のテレビドラマを視聴し、自分のジェンダー観と向き合い、ミニディベートを行って意見交換する。次に、新性別役割分担やM字型就労、中高年の男性の自殺者急増、専業主婦に多い育児不安、DVなどを取り上げ、社会の中にあるジェンダーバイアスとその背景について考える。自分の中の“普通”が本当に“普通”なのかを改めて考えるきっかけとしている。

⑭「家族が抱える問題を学んで-DVを学ぶことから見える生徒の姿・本音」は、生徒の身近

かに起こりうるDVについて学び、DVの種類や、自分の中のDV意識チェックを行い、DVが起る原因やサイクルを知る。DV行為があったと判断される場合には、その被害を防止するDV防止法があることを知り、以前は加害者だけが悪いとされたDVだが、新聞記事より加害者が抱えるストレスや社会問題を考える。

②⑦⑩いずれも、男子生徒・女子生徒自身に問いかけ自己と向き合わせている（私的領域）。また、ジェンダーをめぐる状況や問題を社会的背景と関連させて理解させようとしている（公的領域）。

5. まとめと課題

本研究では、先述したように、分析対象が「家庭科教育」（家庭科教育研究者連盟編集）に掲載された実践という限定はあるが、掲載されたジェンダー・セクシュアリティを取り上げた授業実践の分析を行い、特徴や課題を明らかにした。特に「男性視点」や「私的領域・公的領域」の取り上げ方に着目した。

「家庭科研究」2003年1月～2014年12月号の12年間95冊に掲載されている高校の授業実践のうち、ジェンダーやセクシュアリティを取り上げているのは17実践であった。実践報告からわかり得た範囲での判断であるが、17実践を対象に分析した結果、次のことが明らかとなった。

学習内容を「人権教育」「ジェンダー意識・多様なセクシュアリティ」「性感染症」「家族・結婚」「DV・デートDV」「出産・保育」に分類したところ、家庭科では、家族・結婚と関連させてジェンダー・セクシュアリティを取り上げられることが多かった。第二次世界大戦後以降、高校家庭科では家族についての学習が行われてきており定着しているため、家庭科教師にとって家族の学習と関連させることが行いやすいのではないと思われる。

ジェンダー・セクシュアリティを直接取り上げているものは、「ジェンダー意識・多様なセクシュアリティ」（1実践）、「性別役割分業」（2

実践）、「性感染症」（2実践）、「DV・デートDV」（2実践）の6実践（重複あり）であった。

授業の目的に、「ジェンダー」の記載があるのは、2実践であり、いずれもジェンダーについての固定観念を揺さぶり気付きを促すことをねらっていた。目的や内容に「セクシュアリティ」について記載が見られたのは、多様なセクシュアリティを取り上げた1実践と少なかった。家庭科において多様なセクシュアリティを扱う率が低いのは、良の家庭科教師や高校生を対象とした調査結果と同様であり（良、2010）、本研究でも確認できた。

「男性視点」に着目したところ、男性視点が含まれているのは、17実践中6実践で、そのうち男女共学で学んでいる授業は4実践であった。

「私的領域・公的領域」に着目したところ、私的領域のみ取り上げているのは3実践、公的領域のみは1実践、私的・公的両方の領域が含まれるのは12実践であり、私的領域・公的領域ともに扱う実践が多かった。

そのうちジェンダーやセクシュアリティを主要なテーマとして取り上げているのは、授業の目的に「ジェンダー」という言葉が含まれている2実践と、「DV」が含まれている2実践の合計3実践（重複あり）であった。いずれも、生徒自身に問いかけ自己と向き合わせている（私的領域）。性による損・得や性別役割に対する自分の意識について問いかけたり、専業主夫のドラマを視聴してミニディベートを行ったりして、生徒の価値観を揺さぶっている。また、ジェンダーをめぐる状況や問題を社会的背景と関連させて理解させようとしている（公的領域）。M字型就労、男性の自殺率、DVなどの社会の中にあるジェンダーバイアスとその背景について考えさせたり、ジェンダーにかかわる法律や価値観について他国と比較をしたり、解決に向けて考えさせたりしている。

先行研究では、公的領域や男性視点を扱う授業の少なさが課題としてあげられていた。本研究の結果からは、近年公的領域については取り

上げられるようになってきたことがわかった。男性視点についてはまだ少ないながらも増えてきていることが明らかとなった。研究方法が異なるので、正確な比較ではないが、一知見として参考になると考えられる。

今後は、本研究で明らかとなった課題をもとにした授業の構想とその実践および分析を予定している。具体的には、男性視点、私的領域、公的領域、セクシュアリティを取り入れた授業である。現在研究中であり、別稿でまとめる予定である。

注

1) 現在、家庭科の授業実践を定期的に掲載している教育雑誌は「家庭科研究」（編集・発行：NPO法人家庭科教育研究者連盟、発売：芽ばえ社）のみである。1985年1月創刊～2007年3月（No.267）までは月刊、2007年4月（No.268）～現在までは隔月刊である。授業実践紹介の欄があり、高校の実践はほぼ毎号に掲載されている。

引用・参考文献

- 浅井春夫・子安潤・鶴田敦子・山田綾・吉田和子「ジェンダー／セクシュアリティの教育を創るーパッシングを超える知の経験」、明石書店、2006
- 荒井紀子・吉川智子・大島佳子「高校家庭科におけるジェンダーを視点とした授業の構造化とその実践に関する研究(第2報)ー授業の分析と評価ー」、日本家庭科教育学会誌第45巻第2号、2002、p130-140、p139
- 外務省：女子差別撤廃委員会の最終見解（CEDAW/C/JPN/CO/6）に対する日本政府コメント（2011年8月）
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/josi/comento06.html>（2015.9.28入手）
- 伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子「女性学・男性学ージェンダー論入門」、有斐閣、2002
- 千田有紀「ヒューマニティーズー女性学／男性学」、岩波書店、2009
- 長香織「家庭科におけるジェンダー／セクシュアリティに関わる教育実践の現状と課題ー高校生と家庭科教師を対象とした調査からー」、日本家庭科教育学会誌第53巻第2号、2010、p82-91
- 若桑みどり・加藤秀一・皆川満寿美・赤石千衣子「『ジェンダー』の危機を超える！ー徹底討論！バックラッシュ」、青弓社、2006